



俳諧御傘 六

特別
~5
6041
6





56-4079

御留の傘



屋

款冬

只一冊よハ款冬乃
款冬を又乃名又

ふらふらんとて移ふ様と
い内行とて今一冊は
山乃字吹の字よも不極
付くもくらしあふ極
ひきく極細さなり又
款冬と付くもくらし
某乃名よ款冬と云ふ
さうの事と某乃名か
片梅さよも付くらし
あつ根お款冬の名を

口と海とと漢と日とわらわ
まわりのと積たてたわりの
養と^ましとと^あわらわめ
とととととと

宿

只一睡は一宿なりいふは
わりあるの宿なりあはる

をとりあるのありとあり
は形或乃之集と集と集
り一宿二句乃物よあはる
く二句ありとくくく
もい宿と宿とわと別あり
ま二句はくあるとまあは
然し睡よい宿二乃あり
とゆくと寝よは寝く今
まると宿よ宿なり連よれ
と寝よい宿と寝よ

月あまるとるの宿なり
宿よ七句ある宿なり
物を寝たり

宿

一色宿なり一
式宿なり

二句と睡なりいふは
二十八宿乃数今一あり宿二
宿なり二ありとも二あり何
乃宿ありとも宿なりあり
も為別なりありと宿あり
り乃裏よ数なり宿の
まるとまのくくく
い宿と宿の
乃宿あり

宿

一色宿なり
式宿なり

ありゆく人ふ初くも
 ましりぬはよき海き道
 理れり此状地を原の家
 況才多る人し世の詞
 物と柳よ屋とくまし
 柳田乃内之又屋うし
 柳楊枝本宮菌し
 柳乃乃屋よ付句けし
 屋と柳種よもまうし
 次はは柳種とく句と
 見とわはりる寸し
 とくしと柳も不守
 よ書を結くもまし
 し物秋よりぬあのみ
 ち路に若草のりあ

柳種

柳種小二句は
 乃多くさあし
 同し屋うし物し
 ち一前うらり
 ち敷るひん
 人し信余も
 世とし竹束と
 誤るわ屋よ
 くらあし
 ち付来道
 同し成魚
 付めあ
 時然し
 人かふ
 可し後
 ち連款

排りの教を教らるる教
へ向ふあつらん教力教を
乃也今一句も入る一と二句
教をくらん教風と云ふ未極
乃美りあつても同なの

第一

年乃矢一連ふ二あれ
し排りの矢をきく矢立
矢立の教を矢立の教乃
排云今一行をくらんあつこ

山城乃つぬと云河

場を連りしは多紫あつこ
排と今一あまを排りの行
とくくも羽流も排のあつ
今一もあつるもわ存あつん
も排も二乃也あつるも排

山類よあつるも乃乃
と云句あつるも排乃云
面と極るも排の不可極山
城乃とあつるも排乃云
さ排し排乃云よ三句排云

山

排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云

山

排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云
排の排乃云よ山排と排云

一 西のまゝに

山乃又野のさかすか

紅葉とてはさかすかのさかすか
よ西とてはさかすかのさかすか

山

あやしいさかすかのさかすか
山乃又野のさかすか
さかすかのさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか

山

さかすかのさかすかのさかすか

山

さかすかのさかすかのさかすか

社

さかすかのさかすかのさかすか
乃後とてはさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか

八橋

さかすかのさかすかのさかすか
八橋とてはさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか
さかすかのさかすかのさかすか

とていぢりしむらひを日くむらひ
あまの月のかげにわたり
きりぎりすの音にきこゆる
るれしとていぢりしむらひ
まよひのまよひまよひのまよひ
ゆかりのまよひまよひのまよひ
いづれよまよひのまよひ
いづれよまよひのまよひ
いづれよまよひのまよひ
いづれよまよひのまよひ
いづれよまよひのまよひ
いづれよまよひのまよひ

水生ふ 夜らりしむらひ
月まの 夜らりしむらひ
月まの 夜らりしむらひ
月まの 夜らりしむらひ
月まの 夜らりしむらひ
月まの 夜らりしむらひ
月まの 夜らりしむらひ

わんまの 夜らりしむらひ
のわんまの 夜らりしむらひ
のわんまの 夜らりしむらひ
のわんまの 夜らりしむらひ
のわんまの 夜らりしむらひ
のわんまの 夜らりしむらひ
のわんまの 夜らりしむらひ

夜まの 夜らりしむらひ
山と夜まの 夜らりしむらひ
山と夜まの 夜らりしむらひ
山と夜まの 夜らりしむらひ
山と夜まの 夜らりしむらひ
山と夜まの 夜らりしむらひ
山と夜まの 夜らりしむらひ

真梁の 夜らりしむらひ

海

松のまの 夜らりしむらひ
又のまの 夜らりしむらひ
又のまの 夜らりしむらひ
又のまの 夜らりしむらひ
又のまの 夜らりしむらひ
又のまの 夜らりしむらひ
又のまの 夜らりしむらひ

緑もふもまともれとる理
あつて寸さかゝる其緑の
まゝな梅くさるさちと
とあつて一葉緑乃おま
とるも一葉割乃おま
不可信也

松乃也 百年一葉はく
松乃也 松乃也

正花よあつて

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

松乃也 松乃也

して高きよふを居りのるれども
根本のくちの物るれし極物と

難 難よの二重の難の難まうきり
難の難を難とて難とて今一

約 約よの二重の約の約まうきり
約の約を約とて約とて今一

るりねんま風よのひくま
てもと句の句を約乃字ま
りしすち約急の句いく
もあらしへ一連は約中ら
りし約も約急乃らわら
二乃外よ今一あらわら
せりむらうらそれあく
縁端起ふ申しとこれぬの
あぬ乃 善ははぬあとの難
不可は割

結 結物おもも生敷くもも
結よ小き二句結し馬結

一連おも面をも結し結
七句あり

枕 小句去の取よ青一枕者
のこがのこりる赤ま

者はよありあうあくと
むらあよ枕者くと又又よ
あつし結はけ時を結ふに
と枕の字より一難よ又句

精 小いよの字と不結よ
精よ木の字よよ木の字よ

句可結 良本のあつし
根幹結木のき乃字の
ころよよ木の字よと結
結くるけしとよも結

お京あしあしと又高野を
あめくもまはる湯乃字
乃らあるはち新式より
よ森あち離しはまらと
さつは湯乃字のふと
あよこつしつ

ふふふふ
二ふまこさ代
始とさささつ初
新式をのりさつり
あつとさつ道理
あつとさつ道理
あつとさつ道理
あつとさつ道理

美彦

あつとさつ道理
あつとさつ道理

あつとさつ道理
あつとさつ道理

眉乃

あつとさつ道理
あつとさつ道理

あつとさつ道理
あつとさつ道理

あつとさつ道理
あつとさつ道理

あつとさつ道理
あつとさつ道理

あつとさつ道理
あつとさつ道理

あつとさつ道理
あつとさつ道理

まゝに後海をいじ 海を

海をいじ 海をいじ

海をいじ 海をいじ

海をいじ 海をいじ

海をいじ 海をいじ

松尾家 四月と申見

ま

今日 二階よりあんど發

く

く 昨日の二句ま

く 今日よ今の字不

く 今日よ今の字

く 今日よ今の字

く 今日よ今の字

くわあ~~~~~あ~~~~~あ~~~~~

二のまらわ

あ~~~~~あ~~~~~あ~~~~~
あ~~~~~あ~~~~~あ~~~~~
あ~~~~~あ~~~~~あ~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~







よハ三句ノ昔よハ依句ヲ一切  
不為但母ヲめくるとの類  
よハむく二句雖もり年  
とある月を母のわくはくハ又  
字割され依句ヲ二句雖  
母も可まあるハ面ハ句ハ  
也よハ誰よもさ守但孫も  
あるハくくやあく守

友

只一友東一友まどう人  
一但まどう人又可守有  
事無用やとま新武也  
加は連は地乃まのなるく  
てま乃友と友東氏とま  
二句の物守誰よハ地乃  
乃友守ら友友守ハ友  
友の友友友友友友友

乃也今一ありく二句乃物  
又くくく替よは續友も不  
因あり友大細く友宰相を  
友は友まの人中友友ハ友  
友氏乃内よ成く友東氏も  
友東氏の中るハ友守く友  
くくく同あり友友東氏  
お務く替も續も一三三句の  
物くは替とくゆき友友東氏  
友東の物難く友友友友友  
ふまよ月たるるハ友ま友連  
誰よハ誰あくくハ友東氏  
又物をまきくどうとま物あり友  
乃字をくけ友友よ面と守ハ  
て物物ありあり友ま友  
もあく友友三のあり





無様乃文筆の行水くはの  
わとも乃記の形様虫の類  
不可付無様乃文玉まきり  
物様行紙のくは面と可様こ  
文書乃文よ菓子繪字子ひ  
くううううううの意様様字  
士得入虫様を地面と可様  
意様の文玉まきり  
もきりうううううう  
乃記も乃記もくはまきり  
ひ文書三句乃記くは入る  
わりも様くは様ようりく  
各別のもくは様ようり  
付く文ようりくは付く意の  
文ようりくは入るくは  
乃記くはこのわくはと意乃

文書白くはくはとくはく  
可きも文ようり入るくは  
共くは乃記もくはと  
わくは白くはくは無様  
乃文と書面はありくはぬま  
くはくはくはくはく  
其様とさかん人くはくは  
もくは別可きものくは文  
文月入るくはありくは  
文乃記もくはくはくは  
よ一様之句の物よまきり  
文月といふもくはくは  
乃文書とくはくはくは  
文書乃文よ回くはくは  
乃其若よされし月といひ  
ても文月といひくは文の



同云一産田の物より一産田に  
里ありて其の倍は二倍は  
るせらるるありて其の倍は  
倍は二倍ありて其の倍は  
倍は二倍ありて其の倍は  
倍は二倍ありて其の倍は  
倍は二倍ありて其の倍は  
倍は二倍ありて其の倍は  
倍は二倍ありて其の倍は

富士と汁也

山敷富士川  
山敷ありて

ぬり

其の事ありて  
其の事ありて

其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて

牡丹一和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて  
句に二和若よりわたりて

深之儀

其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて  
其の事ありて其の事ありて

舟

舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり  
舟は舟なりて舟は舟なり









文乃字

新らこねと極遊よ  
ち面と極月のあ

おろろくお乃字と心と二連よ  
おまそし遊よい極文とく極  
よつひくこまろくしあまろく  
お乃字と極あてふ人かろ年  
乃極くおあろくこ乃乃お高  
あへし文乃字と極とく  
ろ紙くおあろくと可あろり  
極と二つあし極りきこ極若  
こ山とあお乃その字と白  
あし文乃字よこの字とあ  
極極りよあまよあまこも  
それと極しぬとろくし  
才極のふけらあまひよあま  
おん文乃字と極のあまきこ

文とろりわあまこあまのあま  
しわ極ととろくお乃極りきこ  
極しわあまろくと極よ極文  
と二つあろくとあまこあまよ  
つと極まろくの極らと極と  
えろり

道徳と極り

らと極乃字  
おあし極極の

字乃らり

冬の文夜

十月節りし

佛名

十二月十日ろりしわあ一日  
とこヶ日ろりし

古

本指

連よ二句の極と極よ二  
ろれとろりしあまのあま





わきしを新式よふ別とて人  
物乃西よ西方よ可極なり  
ふゆるわ昔昔も本乃葉の  
者乃毎よあてりてそり  
そりれゆるまはたさゆる  
毎乃ゆりて本乃葉なり  
もり地ももあまてそる  
あまは極物乃個よつり  
りりりあわそあつり  
新式を交の句るれは極物  
よそりりりりりりりり  
極どりりりりりりりり  
皆あま極なりりりりり  
新式乃りりりりりりり  
りりりりりりりりりり  
新の機よりりりりりり

撰るり排よ新式を可極

月

本乃葉衣

極物おも衣款  
おもたよ之句

冬るり

心乃記

まるり心記るり  
入物よ二句なり

詞の記

無物乃記まふま  
記と記と記よあつ

同云ん乃記詞の記何乃り  
もりあわわりりりりり  
記りりりりりりりりり  
もりりりりりりりりり  
記りりりりりりりりり  
乃記りりりりりりりり  
の記りりりりりりりり

てそのつと詞をいへてはむよ  
かしくきけしきき物と詞の  
むまふるくはとつとふま  
今来約うまよ用く一ふ  
よはくのみあつとありく又  
一ふよのまよあつとけ  
つとあはねばさりけり  
まよあつとけり  
穿裂登よ不許し及

九重

あつとけり  
よあつとけり  
れと約乃其名を連よ約  
よねと始と辨りいふ面と始  
なり九重あつとけり  
ふありあつとけり  
九重のたつと一ありけり

たふまらる面よ一けりこの内  
和よ辨く二つと八をまか  
な乃りあつとけり  
ふよりさ約とつとふまの二句  
きし文字の同つとれたふよ  
おつとつとふまの付くもつと  
一あつとけり  
面と始つとつとふまのけり  
とつと付くもつとつとふまの  
あつかつとつとふまの  
まよよつとつとふまの  
てつとつとつとつとつと  
もおつとつとつとつと  
ふもつとつとつとつと  
詞一つとつとつとつと  
といふよあつとけり















心乃月 難く非親か及ぶ  
瀬より六月乃字より

あつかりもよめて西乃月  
とてとてとてとてとてとてとて

心乃言 非親分恵り  
さう寸親乃子を

あつかりとてとてとてとてとて  
もわりとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとて  
けりてとてとてとてとてとて

心乃友 後乃非人備  
愛面交しとてとて

わり面交しとてとてとてとて  
乃知人ちりり友とてとてとて

去実乃女とてとてとてとて  
あれた人備よとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとて  
連歎非人備よとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとて  
なるととてとてとてとてとて  
よとてとてとてとてとて

急乃 非極和  
但ちけりとてとてとてとて

あつかりとてとてとてとてとて  
極和よとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとて

衣乃衣 衣の字  
之とてとてとてとて

衣類もわとてとてとてとて  
衣の類



去長と短へ一魂魄と替り  
ついでと因お聖乃字も回お  
地靈山よりよはぬもくろく  
くす

いぬ 希死しとくひ物あり  
希死しとくひ物あり

均原よ 小乃字不極小の  
字とあしあり

均原とまはつらわとま  
字よりハと句まはつらわと

ま字よりハと句まはつらわと  
すはつらわとつらつと又字

くま物ゆへ  
紙路 各原よ二句均あり  
紙路とつらつと二句去

すわ

紙路よ 二句つらつと均あり  
紙路よ二句つらつと均あり

意原 極和ふあつらつと均あり  
意原と極和ふあつらつと均あり

去年今年 一均つらつとあり  
去年今年 一均つらつとあり

福ん去歳 あん福ん當年  
新年改年とくつらつと均あり

福ん去歳 あん福ん當年  
新年改年とくつらつと均あり

今日 本日今とま字あり  
今日 本日今とま字あり

子 離よハハあつらつと均あり  
子 離よハハあつらつと均あり

人倫あり親と子とは  
迷懐よりそれも親親  
乃あつらつと親と子とあり





あら 幸風と云ふ

本乃下宿 多し新なり

小鳥後子 格と小鳥と云ふ

格と小鳥と云ふ

江

江 連よ二階よいと云ふ

えびとめ 母と云ふ

葡萄と云ふ

えあ 只一なり

縁も縁もと云ふ  
今一ありえあ  
うゆりにと云ふ  
えあよと云ふ  
下乃好まると云ふ  
縁と云ふ  
ぬらわたりと云ふ  
一人梅と云ふ

續くと云ふ  
東夷 小秋 南  
は肉よと云ふ  
おるわくと云ふ  
と云ふ

えあ 只一人梅と云ふ  
一白と云ふ



よ鐘をさへく〜次とあり〜  
さ〜う〜ひ〜ま〜し〜の〜連〜は〜練  
初ら乃人ち氣味らり〜わや  
ゆ〜し〜付〜交〜向〜と〜え〜付〜ぬ〜ぬ〜よ  
連〜誰〜と〜く〜ん〜と〜金〜も〜と〜さ〜く〜  
成〜ら〜わ〜約〜鐘〜と〜元〜身〜人〜あ〜よ  
つ〜お〜と〜あ〜め〜は〜ま〜あ〜ら〜う〜も〜又  
成〜誰〜の〜も〜社〜頭〜う〜も〜月〜心〜乃  
と〜め〜付〜と〜あ〜く〜ん〜と〜め〜付〜り〜と〜ま  
ゆ〜へ〜よ〜新〜式〜う〜も〜尺〜女〜の〜具〜よ  
不〜火〜也〜し〜人〜あ〜よ〜い〜あ〜く〜と〜さ〜く〜  
は〜く〜く〜わ〜と〜い〜と〜あ〜し〜と〜め  
と〜れ〜し〜連〜誰〜ら〜の〜乃〜あ〜く〜く〜  
真〜お〜身〜と〜の〜こ〜指〜合〜の〜由〜産  
乃〜修〜端〜と〜屋〜め〜ん〜ら〜と〜め〜め〜や  
あ〜れ〜と〜あ〜く〜い〜定〜り〜ら〜ら〜し〜

合らわぬ〜乃〜し〜い〜ま〜  
と〜ぬ〜う〜し〜れ〜を〜と〜代〜人〜あ〜く〜  
へ〜ま〜し〜と〜料〜敵〜と〜は〜ら〜う〜右  
と〜突〜ら〜わ〜ら〜と〜と〜物〜り〜あ〜ん〜と〜大  
小〜男〜成〜う〜と〜と〜あ〜く〜

洗水

洗水は〜わ〜と〜き〜し〜ぬ  
と〜ぬ〜と〜ひ〜よ〜い〜面〜を〜始〜へ〜な〜り〜た〜  
ひ〜と〜い〜と〜洗〜と〜と〜洞〜より〜あ〜ら〜り  
名〜が〜り

ておはの字

ておはの字 ね合と不可  
新〜く〜新〜式〜は〜  
皆〜あ〜じ〜丸〜あ〜あ〜と〜と〜ら〜う〜よ〜わ〜乃  
と〜ま〜ら〜ら〜乃〜字〜と〜と〜張〜と〜く〜乃  
次〜乃〜合〜と〜と〜あ〜く〜へ〜と〜あ〜乃  
下〜乃〜半〜と〜乃〜と〜と〜ん〜と〜

山よ今さらわんざの白よいつては海り  
乃と白とを射又あやのこ白  
よ旅乃東の羽をのちちちち  
月をさすくるとまやよ洞よ重  
こゆあ〜〜橋乃形およてまよ  
とと〜〜次とまゑとてのま  
ふりき〜〜寸と文字ふ文字  
も縁字は留回おほて〜〜と  
る〜〜海さしてまごてまて  
お〜〜とあ〜〜の一字あ  
洞きて〜〜海りよ不端それ  
もわ〜〜持〜〜の〜〜て文字  
と付〜〜らハ橋こま〜〜けり  
い〜〜と〜〜洞をさ〜〜しぬ肉よ  
お〜〜と〜〜誤〜〜と〜〜く〜〜丸〜〜見  
ら〜〜おの〜〜お〜〜ら〜〜入〜〜し〜〜又

あ〜〜と〜〜ま〜〜の〜〜面乃字よ一  
あ〜〜と〜〜ま〜〜の〜〜ま〜〜は〜〜ま〜〜の  
事〜〜巨細よま〜〜の〜〜家道ハ僻  
事お〜〜ら〜〜の〜〜入〜〜と〜〜ら〜〜

物庭よ釣を親釣舟

物お小釣お釣魚

釣町

あ〜〜次あ〜〜ま〜〜は〜〜付〜〜と〜〜ら〜〜  
〜〜寸と釣め親と〜〜と〜〜ま〜〜  
〜〜と〜〜ま〜〜と〜〜ま〜〜の釣乃字よ  
百歳大用大言乃款よい面  
と〜〜ま〜〜ぬ〜〜

乃乃字

乃よ一は〜〜と〜〜ら〜〜し  
誰よい面と〜〜ら〜〜ぬ〜〜

又〜〜ら〜〜と〜〜駁よ〜〜橋〜〜く〜〜ら〜〜ぬ〜〜

妻の中よりいひぬるに  
又とよ下よの御心よ  
支神の心よ御心よ  
付くまの心よ御心よ  
事よの心よ御心よ  
とよめえの心よ御心よ  
はわの心よ御心よ  
かわの心よ御心よ  
枝よの心よ御心よ

よふ  
へし 御心よの心よ

よふ  
へし 御心よの心よ

御心よの心よ  
とよめえの心よ  
はわの心よ  
かわの心よ  
枝よの心よ

御心よの心よ  
とよめえの心よ  
はわの心よ  
かわの心よ  
枝よの心よ

よふ  
へし 御心よの心よ

御心よの心よ  
とよめえの心よ  
はわの心よ  
かわの心よ  
枝よの心よ

年  
五  
月

六  
月

